

各 位

会社名 荒川化学工業株式会社
本社所在地 大阪府中央区平野町1丁目3番7号
代表者名 取締役社長 末村 長弘
(コード番号 4968 東証第一部、大証第一部)
問合せ先 常務取締役経営企画室長 谷奥 勝三
T E L (06) 6209-8500(代表)

格付け取得に関するお知らせ

当社は、下記のとおり、本日付で株式会社日本格付研究所（JCR）より、格付けを新規に取得いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本格付けにおける格付け事由等の詳細に関しましては、株式会社日本格付研究所より本日公表されておりますニュースリリースを添付いたしますのでご参照ください。

記

1. 取得格付け

格付け対象： 長期優先債務
格付け： A－（シングルAマイナス）
見通し： 安定的

2. 格付け機関

株式会社日本格付研究所（JCR）

3. 格付け取得の目的

荒川化学グループは、第2次中期5ヵ年経営計画（平成20年4月～平成25年3月）において「基盤事業のさらなる拡大」、「伸長事業の拡大」、「新規事業・新技術の創生」および「経営・事業基盤の整備と強化」を4つの基本方針として掲げ、さまざまな施策を推進しております。

これら施策の達成のため、今後予想される資金需要に対する調達手段の多様化、安定化および調達力の向上を目指すとともに、荒川化学グループの財務の健全性や経営の透明性を高めることを目的として、第三者機関による客観的な評価を取得いたしました。

以 上



News Release

10-D-0422

2010年9月2日

荒川化学工業株式会社 (証券コード: 4968)

長期優先債務新規格付: 「A-」 (シングルAマイス)

格付けの見通し: 「安定的」

株式会社日本格付研究所(JCR)は、以下のとおり長期優先債務*の新規格付けをしましたのでお知らせします。

* 長期優先債務格付けとは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価(債券の格付け、ローンの格付け等)では、債務の契約内容、債務間の優劣関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること(上回ること、または下回ること)もあります。

発行体: 荒川化学工業株式会社

【新規】

(対象)	(格付)	(見通し)
・長期優先債務	A-	安定的

【格付事由】

- ロジンを主原料とするパインケミカル(松脂化学)業界の国内最大手。1876年(明治9年)創業と業暦は130年以上にわたり、わが国の松脂産業におけるパイオニア的な存在である。ロジンの用途は幅広い領域に及ぶが、生産規模が限定的なことなどからパインケミカルはニッチな業界であり、上位メーカーへの寡占化が進んでいる。当社は、収益基盤である製紙用薬品、印刷インキおよび粘着・接着剤の原料用樹脂などでは、ユーザー業界における有力メーカーを取引先として有し、主要ユーザーにおいてメインサプライヤーとして位置づけられている。また、パインケミカルでの知見を活かした電子材料事業の拡大や粘着・接着剤原料用樹脂を中心とした基盤事業の海外展開に注力しており、国内基盤事業に加えて新たな収益源が加わるかたちで事業領域が拡大している。格付には業界における当社の位置付け等を背景とした強固かつ安定的な事業基盤、多様な収益源および良好な財務体質などへの評価を反映している。
- 主力である国内の基盤事業では、今後需要の飛躍的な拡大は見込みにくいものの、主要ユーザー業界の生産動向に応じて引き続き一定の需要が想定される。また、製造コストに占める固定費の負担が軽く、数量変動による損益への影響が比較的緩和されやすい収益構造となっている。ロジン価格の不安定感が増しており、製品価格とのスプレッドに悪影響を生じないか注視していく必要があるが、原料価格高騰時には一定の価格転嫁が可能と考えられる。
注力している電子材料事業では、主力である光硬化型樹脂「ビームセット」の販売が、08年秋以降の景気低迷を経てもディスプレイ・電子関連分野向けに着実に拡大してきている。高付加価値商材であり、既存用途に加えてユーザー層の多様化を進めることなどで、今後一段と販売を拡大できるのか注目している。海外事業では、台湾など比較的早期に進出したエリアについては収益に貢献しており、中国で展開する子会社なども足元の業績は順調に推移している。
- 国内基盤事業の寄与により、業績は安定的に推移してきた。景気低迷局面や原材料価格高騰時には当社は業績へ影響を生じるものの、一定の収益力が確保され、業績低迷も一時的なものにとどまってきた。また、堅調な国内基盤事業に加えて、電子材料事業や海外事業の収益は拡大基調にある。研究開発などの先行投資負担や08年秋以降の景気低迷局面で業績が伸び悩んでいたが、これまで持続してきた資源投入が本格

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、商業ペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 **日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル
<http://www.jcr.co.jp>

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG (和文: JCRA / 英文: JCR) REUTERS (EJCRA)
QUICK (和文: QR / 英文: QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

情報・研修部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026



News Release

的な成果に結び付いている。今後、現在進めている「ビームセット」など注力する製品の増設投資に伴う償却負担が一時的に拡大するが、中期的にも業績拡大余地があると想定している。

- (4) 財務体質は良好であり、当面もこれを維持可能と考える。10/3 期末の自己資本比率は 55.8%、デットエクイティレシオは 0.3 倍であった。08-12 年度までの中期 5 ヶ年経営計画においては、投資額の規模を 250 億円とし、その前の 5 年間の倍程度にまで拡大する方針としている。ただ、安定的な業績を背景に内部留保の蓄積が進み、また、営業キャッシュフローを投資資金として充当していくことで、財務構成に与える影響も限定的なものにとどまると見込んでいる。

以 上
(チーフアナリスト 窪田 幹也・シニアアナリスト 大石 剛)

本件格付けを行うにあたり適用した主要な格付け手法は弊社のウェブサイト(<http://www.jcr.co.jp>)に「コーポレート格付けの手法」として掲載されております。格付け手法は追加・変更されることもあります。その場合は、時系列的に掲載します。本リリースの公表日と格付け手法の公表日(各手法が有効となった日)とを照らし合わせた上で、上記格付け手法をご参照ください。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 日本格付研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル
<http://www.jcr.co.jp>

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG (和文: JCRA / 英文: JCR) REUTERS (EJCRA)
QUICK (和文: QR / 英文: QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

情報・研修部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026